

〒060-0808  
 札幌市北区北8条西6丁目2-23-806  
 TEL 011-594-8454  
 FAX 011-594-8455  
 URL https://tomari816.com  
 E-mail info@tomari816.com  
 郵便振替口座 02790-1-100850

原発のない安全な北海道に



## 第44回法廷だより

### 2024年11月15日、控訴審第5回期日が札幌高裁で開かれました。

#### 晴天の下

#### 傍聴席は概ね埋まった

2024年11月15日午後2時30分より札幌高裁で、第5回口頭弁論期日が開かれました。傍聴席は多くが埋まっていました。期日では、一審原告、一審被告が、それぞれ以下の書面を提出しました。

#### を提出しました。

2 一審被告は、対津波安全性と、その前提となる基準津波に関する一審被告の主張を改めて行う準備書面(8)を提出しました。もっとも、津波対策である防潮堤については令和6年3月28日に着工し、一審被告の主張を前提にしても完成まで3年程度かかることが明らかにされています。

#### 一審原告意見陳述

一審原告の意見陳述は、在田一則さんが行いました。

1 一審原告は、近郊居住の原告において、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に関連し、音波探査優位の手法で想定されていた海底活断層の規模では説明がつかない地震が現実には発生した事実と、変動地形学の観点からは現実により近い活断層の存在が半ば予見されていた事実を指摘しつつ、泊原発においても変動地形学の手法を重視して海底活断層の存在を認定すべき(規制委すらそのことを否定していない)であり、そうすると現在被告が想定しているよりもはるかに大規模な長さとなることから、海底活断層に関する被告の想定は過小評価というほかないとの主張をする第5準備書面

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻において地質学を専攻し研究・教育に従事し、現在は北海道自然保護協会会長を務めているという経歴から意見を述べ、地質学の観点から日本国内に地層処分適地がないことを指摘しつつ、2012年9月の日本学術会議の原子力委員長への回答「暫定

保管および送料管理を柱とした政策枠組みの再構築」を支持する立場を明確にし、これと相容れない泊原発再稼働に強く反対する旨表明しました。また、高い安全性をうたいながら、エネルギー効率的に合理的なはずの大都市圏への原発設置を決定して行おうとせず、受益圏と受苦圏を分離しているという世代内倫理の問題を指摘するとともに、現在世代の利益のために将来世代に負担を強いているという世代間倫理の問題を指摘し、泊原発再稼働への反対を強く訴えました。

#### 次回期日に向けた準備等

期日に先立つ進行協議において、裁判所から被告に対し、原告が直面する危険が抽象的なものであるという被告の主張を前提にした場合に、3年程度後には防潮堤が完成するとの主張がどのような意味を持つのかという点について関心を持っていると示されたことを踏まえ、一審原告において、津波に対して少なくとも3年程度(実際にはより長期間にわたる可能性すらある)無防備になることや、そもそも基準津波の想定自体が不適切であること等から具体的危険が生じている旨主張する方向で準備を進めていくこととしました。

一審被告においては、次回期日までに火山に関する主張を行うとともに、次回ないし次々回期日までに近郊居住原告第5準備書面に対する反論を提出する旨表明するとともに、その他の論点に関する主張を随時行っていくことが示されました。

#### 今後の予定等

次回期日は、令和7年3月19日(水)午後2時30分からです。次回もたくさんの方に傍聴においていただき、ともに廃炉への意志を表明していきましょう。

(文責)佐々木泰平



## 意見陳述

控訴人 在田一則

在田一則と申します。2005年3月の定年退職まで北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻において地質学、地質学とヒマラヤ・日高山脈の地質学的研究に従事し、現在は一般社団法人北海道自然保護協会の会長を行っております。

ここでは、地質学を学び研究してきた立場から核エネルギーおよび原子力発電所についての私の考えを述べます。また自然保護から見た原発についても一言触れます。

我が国は、1945年の広島・長崎への原子爆弾投下による凄惨な被曝体験、そして1954年のマシーナル諸島ビキニ環礁での米国の水素爆弾実験による第五福竜丸乗組員の被曝と二度の放射線被曝を経験しました。もちろん、その他にも各国の原水爆実験地周辺には多くの放射線被曝者がおりますことは



言うまでもありません。そして2011年3月11日には福島第一原子力発電所事故による四度目の被曝と放射能汚染を体験し、その影響は多くの避難民への対応、放射性物質に汚染された膨大な廃棄物の処理問題、汚染水の海洋放出、そして廃炉など、多くの問題点が今後も長期間にわたって続きます。

三度の被曝体験は原水爆の実験禁止そして廃止を求める国内外の運動となり、日本原水爆被害者団体協議会は「核兵器使用のタブーの確立」に多大な貢献をしたと認められ、今年度のノーベル平和賞を受賞することになりました。

私が高校に入学した1957年に茨城県東海村で研究用原子炉の火が灯ったことは、当時のソ連が打ち上げた世界最初の人工衛星スプートニクのニュースとともによく記憶しており、これからは原子力平和利用そして宇宙開発の時代が始まるのだと子供心に実感し、人類の明るい未来を感じたのを覚えております。

核反応によるエネルギーは化学反応によるものとは比べものにはならない莫大なエネルギーです。原子力平和利用つまり原子力発電所では、その核エネルギーを一瞬に放出する原爆とは異なり、核反応を制御棒で制御して放出するので、原子力発電所は複雑な高度に設計された装置(機械)であることがわかります。

私はその後、北大において地質学を学び、日本は地球上最大の大陸であるユーラシア大陸と最大の海洋である太平洋の境界にあること、さらにプレートテクト

ニクス理論の出現により、日本が世界でもっとも火山や地震が多いことの原因は太平洋プレートがユーラシア大陸の下に沈み込んでいることにあること、また自身の研究からもそうであることを確信しました。

2023年10月30日に、300名余りの地球科学の専門家が、現在日本で進められている高レベル放射性廃棄物の処理問題について、「世界最大級の変動帯の日本に、地層処分は不適地はない」現在の地層処分を中止し、開かれた検討機関の設置を」と題する声明を公表しました。私はその声明の呼びかけ人となりましたが、それは私の地質学研究者としての体験からです。声明では、2012年9月の日本学術会議の原子力委員長への回答「高レベル放射性廃棄物の処分について」で提案されている「暫定保管および総量管理を柱とした政策枠組みの再構築」に賛同しています。ここでの総量管理とは、放射性廃棄物の量をこれ以上増やさないために、厳しく規制管理することです。つまり、原子力発電所をこれ以上増やさないとということ。この意味でも私は泊原子力発電所の再稼働に強く反対いたします。

最後に現在の私の立場から一言申し上げます。自然を破壊する要因としては、人間の活動が最大と言えます。しかし、短時間での大規模な自然破壊としては戦争あるいは核実験や原発事故が最大だと思います。自然保護や環境問題においては、「世代内倫理」あるいは「世代間倫理」という言葉があります。原発設置では、原発は幾重にも安全性をはかっているのに、安全であると盛んに

言われます。そうであるならば、なぜ、自然を破壊する長距離かつ大規模な送電線が不要な大都市の近くに原発を設置しないのでしょうか。その理由はいろいろあるかもしれませんが、私には、これは原発という高度に複雑な機械装置が言われているほど安全ではないこととの傍証ではないかと思えます。また、原発が作り出す膨大なエネルギーは大都市が享受し、原発事故などの厄難は原発設置の地方が被ります。これは世代内倫理の例です。また社会学で言われる受益圏と受苦圏の構造とも言えます。このような構造は私が子供の頃にあった、石狩炭田の石炭を享受する首都圏と炭坑事故という悲惨な災害を被る産炭地という構造と相似します。

世代間倫理は、端的にいうと、材木が必要だからと言って森林を伐採し、未来の世代が必要な分までを切ってしまうても良いのかという問題、つまり未来世代に対する倫理です。世代間倫理は、環境問題のみならず、いろいろな問題で重要な考え方ですが、原発問題についても言えます。原発が出すいわゆる核廃棄物の処理問題は原発発足の当初から言われていますが、いまだに解決の糸口もありません。我々が享受している(あるいはさせられている)原発の恩恵のツケを未来の人たちに回すことを避けなければならないことは人間の倫理として当然のことだと思います。

このように、世代内倫理および世代間倫理の考え方からも、私は泊原子力発電所の再稼働に強く反対いたします。



## 原発事故と

## 精神病院

最終章

寄稿

くるみざわしん

(劇作家・精神科医)

2011年3月の東電福島原発の事故の後、デモや集会に通うようになった。劇作家、精神科医としてではなく、ひとりの人としてそうしないではいられなかった。たくさんの人達に出会ったけれど、劇作家や医師にはほとんど出会わなかった。それを寂しいと感じる余裕もなかったのだが、デモで手にしたピラに「病院」という文字を見つけた時はうれしかった。同業者に仲間がいる。大阪府松原市の阪南中央病院で、原発労働者の診察を続けている内科医・村田三郎さんの講演会を知らせるピラだった。平日、仕事を急いで終えて聴きに行った。被爆労働者の側に立ち、裁判で電力会社と闘った村田さんの体験談に心が躍った。話を終えた村田さんに声をかけ、精神科医であることを伝えると、村田さんは「今日の話は医者以外の人に伝えてください」と言った。私はえっと訊き返した。村田さんはうれしそうに笑って「医者以外の人に伝えてください」と繰り返して、「医者はこの話は伝わり

ませんから」と付け加えた。冗談めかしてはいるが、冗談ではなく、長年の村田さんの体験から出た言葉だと感じたけれど、この時はまだ半信半疑だった。

その後もデモと集会に通い、「チェルノブイリ救援関西」で1991年から医療支援を続けている内科医の振津かつみさんと知り合った。振津さんの以前の職場は阪南中央病院で、村田さんとは元同僚だった。振津さんと私は、原発事故で大阪に避難している人たちの団体から頼まれて医療相談を引き受けた。避難者の話を聴き、振津さんが体の、私が心のことを助言するという形の相談会ができた。振津さんの診察は言葉が良く練られていて、質問が上手だった。精神科医として見習うところが多く、臨床を实践で学ぶという医療の本道を歩んでいる気がした。大阪での相談会を知った、滋賀県の避難者の団体から私に声がかかり、1、2カ月に1回メンタル相談に通うようになった。避難者の方々にお会いして、滋賀にたどり着くまでの経緯をお聴きした。原発事故で生活を奪われ、自宅、家族、友人、仕事、学校から引き離される。それがどういうことなのか。普段の勤務では感じることない憤りを感じた。次に京都から声がかかり相談に行った。次は兵庫、和歌山から頼まれるかもとなり、

気が遠くなった。依頼をすべて引き受けたら毎週末が避難者相談で埋まってしまう。平日の勤務もあるの体が持たない。誰か手伝ってくれ人をとったが当てがない。声をかける元気も出ない。多くの避難者がこの気持ちを味わっているのだろう。医師はあてにならない。肝心な時に助けてくれない。

残念なことにこの後、各地の避難者団体の活動が急速に停滞して、相談会の依頼があつという間になくなった。避難している人達の一人ひとりに事情があり、団体の維持は難しい。本来、避難者の相談会や検診は原発事故を引き起こした東電と国が主催するべきなのに何もしない。

唯一、奈良での検診と相談会は民医連が主催して今も続いている。奈良在住の精神科医の友人が手伝ってくれて、私は一人ではなくなった。開業医で参加している内科医もいて、会つても短い立ち話をするだけだが、ずいぶんと励まされる。

ある避難者はこう言った。「病院に行こうとは思わない。原発事故で避難したことを話したら、なんでと尋ねられる。避難したのが間違っているみたいに言われるのが嫌」。こう感じている人はかなりいる。事故を起こした東電・国を守り、避難者を責めてしまう。なぜ医者に話が通じないのか。原因は医学部の教育にあ

ると思う。

私は新潟大学で学んだが、新潟水俣病についての授業はなかった。医師の戦争犯罪（731部隊など）も、精神病院での虐待事件も学ばなかった。どこの医学部も同様だろう。医学部の教育には過去の間違いを事例に医の倫理を学ぶ機会がない。医師の家に生まれた人が多く、身内の罪を知る機会は少ない。被害者の側に立つことを知らない。どうしたらいいのか。道は遠い。

## プロフィール

くるみざわしん



精神科医。劇作家。2011年からニューヨークシアターフォーラム・ジャパンに参加。原発誘致による分断を描いた『同郷同年』で「日本の劇・戯曲賞」とOMS戯曲賞大賞、中央権力の横暴と闘う武士を描いた『忠臣蔵 破 エートス/死』で文化庁芸術祭賞新人賞を受賞。近著に『くるみざわしん 精神医療連作戯曲集 精神病院つばき荘／ひなの砦ほか 3篇』（ラグーナ出版）がある。

寄稿

# 2024年廃炉予定だった ディープロキヤニオン原発が 稼働延長に?! キヤロル久末

1957年、カリフォルニア最初の原子力発電所パレシートス原子力センターが稼働開始してから67年。その間、合計8基の原子炉が建設され、稼働したが、システムの問題や市民運動の反対などで現在、稼働しているのはディープロキヤニオンの2基のみ。しかも、2016年には運用者、環境保護団体、労働組合などの話し合いでディープロキヤニオンも現在の稼働許可が満期になった時点で閉鎖され、廃炉作業に入る予定だった。

一時は次々とアメリカの原発の廃炉が決まっていたが、核産業、原発産業などの働きで原発こそ「温暖化対策」だ、という考えが広まり、政府も多額の補助金などで救おうとしている。

当時、州副知事（そして現在州知事）のギャビン・ニューサムもこの提案に賛成だったが、それから数年後、原発産業の働きなどで考えを一転し、2022年の州議会でディープロキヤ



ニオン稼働延長法案、SB 846を強引に可決にもっていった。まともな論議もなく。

ディープロキヤニオンは日本の数々の原発同様、活断層の上に建設されている。しかも、1号機は全米の中でも酷く脆化している原子炉のトップだ。地震などで急に停止したら破壊する恐れが非常に高い。その上、試験片の検査は十数年も延期されている。

新たなデータによると震災リスクも以前想定されていた何倍も高い。気候変動で原発はさらに危険にさらされている。そして、使用済み燃料を再処理しないアメリカでは現在、原発施設内に核廃棄物を保管するしかない。しかも、使用済み燃料は日本やドイツと異なり、厚さ数センチのステンレス製キャニスターに保管されていて、線量漏れも測定されている。災害時に備えてのシミュレーション（想定）やドリル（練習）などは一度も行われていない。

## 1日でも早く、廃炉にすべきだ。

マザーズ・フォー・ピースはディープロキヤニオンの企画段階から反対してきた地元のNPOで、稼働延長に対しても様々な法的処置を追求しているが、今のところ、米原子力規制委員会やカリフォルニア州エネルギー委員会、カリフォルニア州公益事業委員会も稼働延長を支持し、まともな点検や検査なくして稼働延長を許可している。

本来なら1号機は今年の11月2日に、2号機は来年の夏に閉鎖される予定だ。これからもマザーズ・フォー・ピースや連動している団体はプレッシャーを与え続ける。是非、皆さんも応援してください！

詳しくは <https://mothersforpeace.org/donate/>

# 集会実施までの 経緯と報告

世話人／鼎談進行

世話人 マシオン恵美香

2018年に廃炉後30年以上経過したランチョセコ原発の調査研究に続き、2024年、2025年に廃炉措置が決定していたディープロキヤニオン原発周辺事情を調査するため、筆者は本年4月に渡米し、カリフォルニア州スタンフォードエリアで事業者、事業関係機関、研究者、現地の市民運動グループなどにヒヤリングを試みた。

問題の原発を所持するPG&Eが廃炉を取りやめ稼働延長を決めるに至った経緯から、行政訴訟の詳細を知るため市民運動団体Mothers for Peaceとつながりを持った。

広報担当者を通じ、原子炉から7マイル辺りに居住し、活動する活動メンバーであり、日本語が話せる人物をご紹介いただいた。折よくキャロル久末氏が来日されるといので、滞在期間中の貴重な時間をご提供いただき、基調講演を実現する運びとなった。

私たちは国会ロビーイング集会までに数度、オンラインで会議を持ち、直前の9月7日には全国の脱原発グループとの事前オンライン勉強会で質問項目をまとめた。

右からキャロル久末さん、  
廃炉の会共同代表 市川守弘弁護士、  
廃炉の会世話人 マシオン恵美香



会場の衆議院議員会館の手配や当日のお手伝いなどに尽力してくださった、  
立憲民主党北海道連代表の  
逢坂衆議院議員





## 集會次第

- ① 裁判原告でもあるマザーズフォーピーズの活動と、訴訟内容
- ② デイアフロキヤーン原発稼働期間延長となった経緯
- ③ 廃炉後の使用済核燃料の未来

## 鼎談での話題

- ① 訴訟
  - 泊原発訴訟が双方とも控訴となっている経緯
  - デイアフロキヤーン原発訴訟のポイント
- ※ 市川守弘弁護士が行政訴訟と民事訴訟の違いなど法律用語の補足解説
- 原子力規制委員会が審査している問題点

- ② 原子力防災避難計画と安全対策(双方について)
  - 原子力に特化した防災避難訓練
  - 経口安定ヨウ素剤の配布
  - 自然災害と複合災害
  - 能登半島地震の被害を窺て
- ③ 両国の使用済核燃料の未来
  - 住民意見が反映される余地はあるか？
  - 日本とアメリカの圧倒的違い
  - 再処理 深地層処分

※ 日本のオーバーバックが頑丈だと言う以前にアメリカではしていない使用済み核燃料の措置、キャニスターに封入するガラス固化体に至る以前の再処理事業が大変危険

## 口頭弁論報告会

札幌高裁での第5回控訴審口頭弁論後に報告会がありました。

法廷には60名が駆けつけ、報告会には42名が参加、マスコミも合わせると会場は満員となりました。

冒頭、意見陳述者である在田一則さんから、意見陳述された内容を補足するかたちで、「大変難しい問題」と前置したうえで、人間の快適さを求める際限のない欲望をどこかでチェックする事が、エネルギー問題では重要ではないか等の発言がありました。地質学者としての長年の研究活動や、自然保護活動、世代間倫理の視点からの重みのある意見陳述であったと感じました。

続いて菅澤弁護士事務局長から、一審判決のおさらいとして「国の適



PDFを駆使して第5準備書面の論拠について説明する弁護士事務局長の菅澤弁護士

合性審査のとの関係では、いつとおるか不透明な北電の対応もあり、裁判は熟したとして判決に至ったこと、しかし他の裁判では適合性審査で安全ですと証明されたら、原告が負けている現状にあること」が説明されました。

また、5回続いている控訴審の流れとして、北電は既に敷地内断層、海底活断層、津波、火山(次回)の書面を提出し、ほぼ了承されてきているが、そのことに対して裁判官はほとんど無反応。逆に「防潮堤の改良が予定されているが、その場合人格権の危険性についてどう考えるかを逆に私たちに問うてきた」という説明があり、そう遠くない時期に終結しそうな雰囲気を感じることが示されている危うい状況にあることも示されました。

続いて今回提出した第5準備書面について、能登半島地震を経緯に変動地形学者とお抱え御用学者(産総研)との相違等と、私たちが依って立つべき論拠についての説明がありました。

会場内からは、準備書面を裁判官の前にプレゼンすることの提案、北電の安全対策は防潮堤以外にはないのか、輸送船の漂流対策についてどのような状況にあるのか、今回の選挙を受けて防災の観点から全国的組

織を通じて国会を動かすなどさらなる国民的運動にしたい等の質問、意見がありました。

今回の控訴審の準備書面を軸に『能登半島地震から改めて認識された原発の危険性』と題した学習会を、年明け1月12日(日)午後2時から高等学校教職員センター(札幌市中央区大通西12丁目)で行います(詳細は同封のチラシを確認下さい)。

※ 法廷内のやりとりだけではよく判らないことが、報告会で明確になることもあります。引き続き報告会への参加を訴えます。

文責 事務局長 廣谷淳一



当日の会場全体

## 映像資料に学ぶ原子力とキノコ雲2025年

2022年にスタートした『映像資料に学ぶ原子力とキノコ雲』は3年間で39本の核関連映像作品を通じて合評を中心に学習してきました。2025年は1月の『ネアンデルタール人は核の夢を見るか』でスタートし、12月の『オッペンハイマー』で4年間の活動を終えます。

	日程	曜日	作品名(公開年)	監督	概要	上映時間
1	1月14日	(火)	ネアンデルタール人は核の夢を見るか(2021年)	HBC	放射線廃棄物最終処分場に名乗りをあげた寿都町の人々の葛藤 TVドキュの心意気	60分
2	2月14日	(金)	カタストロフィー～破滅を防ぐために～(2022年)	ストップ・ザ・もんじゅ	原発、核燃施設が自然災害に遭った場合の事故の危険性… 貴方ならどうする 泣くの 歩くの 死んじゃうの	47分
3	3月14日	(金)	チャイナシンドローム(1979年)	ジェームス・ブリッジス	原発事故をめぐる「闘うメディア」と権力との死闘 スリーマイル島原発事故の予見 主演/ジェーン・フォンダ	122分
4	4月14日	(月)	理の人がみた原子力政策(2024年)	NHK	研究者吉岡斉の見た国家の原子力政策 決定の舞台裏	60分
5	5月14日	(水)	人魚伝説(1984年)	池田敏春	原発立地をめぐる「原子力マフィア」と、それにほとんど素手で立ち向かう海女の復讐譚	110分
6	6月14日	(土)	イエローケーキ(2010年)	ヨアヒム・チルナー	世界のウラン鉱山は眩く 欲とウラン鉱石 開発の暗黒舞台～ クリーンなエネルギーという嘘～	108分
7	7月14日	(月)	ヒロシマ ナガサキ(2007年)	スティーブン・オカザキ	日本人被ばく者と共に原爆製造・投下に加わった米人にも内心を吐露させる- 被ばく・加ばくの相対化	86分
8	8月14日	(木)	長崎の鐘(1950年)	大庭秀雄	世界で最初の被ばく映画 クリスチャンである主人公にとってのナガサキ	94分
9	9月14日	(日)	母と暮せば(2015年)	山田洋次	反戦、反核を生涯語り続けるであろう 吉永小百合主演 舞台は長崎	130分
10	10月14日	(火)	私の終わらない旅(2014年)	坂田雅子	監督坂田雅子がナビする英、仏、ビキニ、日本、カザフスタン等グローバル被ばくの歴史と現実	78分
11	11月14日	(金)	『夜と霧』+『黒い雨』未公開ラスト(夜と霧195年)	アラン・レネ 黒木和雄	第二次大戦のジェノサイドと黒い雨の未公開終章	50分
12	12月14日	(日)	オッペンハイマー(2023年)	クリストファー・ノーラン	私は死に神 ～恐怖理系 人間オッペンハイマーの苦悩とは～ 人新世は人類と共に21世紀で終焉を迎えるのか	180分

※初めて参加される方は事前に連絡をください。(問い合わせ先090-8370-4610 ヒロタニ)

いずれも会場はエルプラザ、開映は14時 ◆12/14のオッペンハイマーのみ13時15分から開映



地域連絡会報告

泊原発の廃炉をめざす 札幌北区の会

10月12日、札幌市北区民センターにおいて泊原発北区の会は総会を開きました。コロナ禍の中で4年ぶりの活動を開始し、5年半ぶりの5回目の総会でした。参加者は9人でした。野村陽治事務局長の司会で開会され、活動方針として毎月第3土曜日地下鉄麻生駅前で街頭宣伝、署名等の活動、3カ月毎の学習会、「ハイロ通信」継続発行等を決めました。出席者からは「ハイロ通信で勉強をしている」「執筆者から直に話を聞きたい」「ミニ学習会に講師派遣してほしい」など積極的な意見が出されました。なお、この総会で2人が新しく入会しました。

早速、総会前の10月12日と11月16日、午後1時から地下鉄麻生駅前で、泊原発の廃

炉をめざす会が取り組む知事宛の「泊原発の再稼働を認めないでください」の署名活動に取り組みました。参加者は6人、5人で署名は各11筆ありました。北区の会でも取り組んだ10月からの署名は72筆になりました。

文責 富田素貴江



十勝連絡会

十勝連絡会は、今年も十勝管内全市町村でスタンディング活動を実施しようと頑張ってきました。第18回は、11月30日に音更町で実施。当日は気温が2度くらいの寒い日でしたが、地元音更町の町民が多く参加してくれて、26名で意気高く行いました。石垣加奈子共産党町議は、「国会で与党が少数になり、国民にとって要求実現に有利な国会情勢になっている、原発ゼロに向けて頑張ろう」とスピーチをしました。



村15名、第13回は9月28日に鹿追町9名、第14回は10月5日に士幌町11名、第15回は10月19日に清水町16名、第16回は10月26日に芽室町14名、第17回は11月2日に幕別町13名、2020年5月から通算81回、延べ1559名参加。12月14日の帯広市で全市町村実施となる予定です。

また、十勝連絡会は、11月16日に定期総会を開き、全議案を承認し、役員を選出(10人全員留任)をしました。市川共同代表の温かいメッセージがありがとうございました。

文責 十勝連絡会代表 中村廣治  
写真 事務局長 菅原哲也

釧路地域連絡会

釧路市では10月27日の衆議院議員選挙に加え、釧路市長選挙、北海道道議会補欠選挙、国民審査投票が重なり、不本意ながら、毎週金曜夕刻に釧路駅前で行われていた脱原発、反戦平和のアピール行動は、縮小して行われるようになりました。有志に抛るスタンディングアクションは、冬場の開催も同様に不定期で継続する見込み。



9月16日には釧路地域連絡会から2名が泊原発基地内見学バスツアーに参加し、防波堤、新トンネル、専用道路建築など安全対策工事内容について北電の説明を聴きました。現地13ヶ町村での泊原発周辺地域原子力防災避難訓練の実働訓練参加者実績値を得るため、10月31日に実施された原子力防災避難訓練バスルートなどを北海道危機管理課原子力安全対策室に問い合わせました。署名活動や核ゴミ最終処分問題の情報周知など釧路に居てもできる原発再稼働阻止・反原子力アピール行動を継続しています。

世話人 マシオン恵美香

第7回 ハイロ川柳

自然に返せない物を作ってはいけません 北区 浜野さん

燃やすのは 明るい未来 原発灯 神奈川県 窪田さん

青森に 借金隠して 配当金 青森県 森の借金トリさん

まずデブリ 取り出してから 物を言え 江別市 TNさん

廃炉へと 共に手をとる 希望の環(わ) 岩見沢市 オクトーバーさん

悪政へ ノーベル平和賞 一矢射る 音更町 菅原さん

第8回 ハイロ川柳を募集

脱原発・核ゴミ・泊原発についての川柳を募集します

- ★ハガキに川柳を書いてハイロの会川柳係まで
- ★住所、氏名、連絡先を書いて一通に3句まで
- ★氏名は本名又はペンネーム又はイニシャル
- ★掲載=川柳係が選定
- ★第8回の応募締め切りは2025年2月末日

お問い合わせ先 090-6443-3195 (加藤まで)



# 第5回 HAIRO クロスワードパズル

問題 「ABC」  
「DEF」と「タテ」のカギを解き、A・B・C・Dの順に答えてください。

類を叩くような原発推進政策

1	2		11	3	4
12		5		13	
				14	
	6		7		
8			15	9	10
16					17

答え **A B C D** 答えは  
次のニュースで

作成：加藤 浩道 お問い合わせ先 090-6443-3195（加藤）

## ↓ タテのカギ

- 〇〇〇海峡冬景色♪と石川さゆり
- 北海道は以前〇〇地と呼ばれていた
- ハンセン病患者を〇〇〇していた
- 〇〇〇味のアイスクリーム
- 原爆・原発の原料
- 「また〇〇〇遊ぼうね!」
- 招き〇〇、〇〇の手も借りたい
- 〇〇朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国
- さなぎから〇〇して蝶になる
- 〇〇の葉さ～らさ～♪

## → ヨコのカギ

- 転ばぬ先の〇〇
- ゆりかごから〇〇〇まで」の社会保障
- レントゲンで〇〇〇診断
- 現在、約200の〇〇が国連に加入
- ライラックの別名。〇〇冷え
- ユダヤ人少女「〇〇〇の日記」
- A級戦犯だった〇〇信介
- 〇〇〇点で信号待ち
- い草が原料の〇〇〇
- 米国の核の〇〇に頼る日本

### HAIROクロスワードパズル応募方法

ハガキに解答(カタカナでもよい)と郵便番号・住所・氏名・連絡先を書いて2月末必着でHAIROの会会クロスワードパズル係まで送ってください。

**プレゼント** 正解者にハイロポケットティッシュと会員様からプレゼント用にほしいといただいた図書カードを進呈します。

問合せ先:090-6443-3195(加藤まで)

### 泊原発の廃炉をめざす会学習会

# 能登半島地震から改めて認識された 泊原発の危険性

日時 **2025年1月12日**  
開場 13:30～ 開演 14:00～

会場 **高等学校教職員センター**  
札幌市中央区大通西12丁目

参加費 **500円** (学生無料) 事前予約不要

**学集会 要旨** 1年前の能登半島地震を経験し、泊原発裁判は何か変わったか? 2011年11月の提訴から13年、2022年5月に泊差止判決。8月に政府は突然の原発政策転換宣言。そして2024年元旦の能登半島地震。その現実を目の当たりにして、泊に置き換えたならどうなるかという視点で認められた第五準備書面に対する裁判官の反応はどうだったのか…。

菅澤弁護団事務局長を講師に、能登半島地震から認識された泊原発の危険性を学びます。

**Zoom 申し込み**

Zoomによるオンライン参加を希望の方は、下記からお入りください。

<https://us02web.zoom.us/j/89841413739?pwd=qVEEDY7CFQawmFW9SU7ABKCUyMj.1>

ミーティング ID: 898 4141 3739    パスコード: 744698

また、お買付でカタログ(会のお振込みを明記しております)。

お振込み先 郵便振替口座 番号 02790-1-100850 泊原発の廃炉をめざす会

**連絡先 泊原発の廃炉をめざす会**

札幌市北区北8条西6丁目2-23-806 TEL011-594-8454  
担当者:090-7510-9361(筒谷) 月曜日・水曜日 10:00～13:00  
Eメール: info@tomari816.com URL: https://tomari816.com

### ～原発を動かさない・核ゴミは持ち込ませない～

福島原発事故から14年、原発と核ゴミを考える3.2集会

# 大島 堅一 さん 講演会

原子力政策の反転と核ゴミ処分

東京電力福島第一原発事故から14年、日本政府は原発政策を大転換し原発の再稼働を進めており、北海道でも泊原発の再稼働に向け、原子力規制委員会による審査が急ピッチで進められています。また、核のゴミを電気の最大消費地から遠く離れた自治体に押し付けることにより原発を動かし、さらに使用済み核燃料を増やし続けようとしています。この不正義に、寿都町と神恵内村の住民だけでなく、全北海道民が今まさに直面しているのです。泊原発の再稼働を許さず、核のゴミを持ち込ませないために私たちに何が出来るのか、2025年3月2日、ともに集い考えたいと思います。

日時 **2025年3月2日(日)** 開場 12:30～ 開会 13:00～

会場 **かでの2.7 4階大会議室** 札幌市中央区北2条西7丁目

参加費 **1,000円** (事前予約不要)

Zoom申し込み Zoomによるオンライン参加を希望の方は下記連絡先アドレスにメールで申し込んでください。その場合カンパ金の振り込みをお願いします。

申込期限 2025年2月28日(金)

**第1部** 今、伝えたいこと

- わかなさん <「わかな十五歳 中学生の瞳に映った3・11」の著者、札幌在住>
- 大田 勲さん <菅内町町議>
- 南波 久さん <子どもたちに核のゴミの無い寿都を! 町民の会共同代表>

**第2部** 大島堅一さん 講演会

【講演会タイトル】 原子力政策の反転と核ゴミ処分

【プロフィール】 釧路大学教授、原子力市民委員会会長、日本環境会議代表理事。  
【著書】 『わかな十五歳』 『原発のゴミ』 (岩波書店、2011年、大佛次郎論壇賞受賞) など。

主催 泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会 (略称:泊・核ゴミNO!) 道連

連絡先 集会事務局 ☎090-9524-7531 (井上)  
Eメール: tomariakugominodoren@gmail.com URL: https://tomari-no-doren.jimdofree.com

## 控訴審第6回口頭弁論

2025年3月19日(水) 14:30～  
札幌高等裁判所(札幌市中央区大通西11丁目)

報告会 口頭弁論終了後 ～16:30 会場 高等学校教職員センター(札幌市中央区大通西12丁目)

2024年12月25日 発行 / 泊原発の廃炉をめざす会(HAIROの会)  
タイトルイラスト: 堀川 真 編集: 加藤 浩道・久米田 佐和子・田中 和子・廣谷 淳一・間谷 真澄・村本 深雪 撮影: 及川 文